平成　23　年度　**事務事業マネジメントシート**　　作成日　平成　23　年　7　月　21　日作成

事務事業名	コード 33060	にし阿波観光圏整備事業	観光の振興		
政策名	総合計画体系 3	地域性を活かし魅力ある煌めくまち	所属部	産業観光部	所属課	観光課
施策名	総合計画体系 2	産業の振興	所属係		課長名	桧尾良和
基本事業名	総合計画体系 2 4	観光の振興			電話番号	72－7620
					（内線）	
予算科目	会計	款	項	目	法令根拠	
事業期間	☐ 単年度のみ　☐ 単年度繰返 ↳（開始年度　年度 ～ ）			☑ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳（20 年度 ～ 24 年度）		

事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

県西部2市2町が連携して2泊3日以上の滞在に対応可能な魅力ある観光地づくりを推進するための「にし阿波観光圏整備実施計画（H20～24の5ヵ年）」を策定し、平成20年10月1日付けで国土交通大臣より認定を受けた。「歴史や伝説に彩られた日本の原風景の中で過ごす心豊かな時間の創造」をテーマに、「宿泊の魅力向上」・「観光コンテンツ充実」・「移動の利便性向上」・「観光案内情報提供」を4本の柱とし事業を実施。平成23年度からは一般社団法人そらの郷を事業主体とした観光地域づくりプラットフォーム事業を実施し、滞在促進を図る。

全体計画（期間限定複数年度のみ）　（単位：千円）

総投入量			
事業費 財源内訳	国庫支出金		
	都道府県支出金		
	地方債		
	その他	28,502	
	一般財源	41,448	
	事業費計（A）	69,950	
人件費	正規職員従事人数	1	
	延べ業務時間	5,400	
	人件費計（B）	20,520	
トータルコスト(A)＋(B)		90,470	

1　現状把握の部（DO）

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）

22年度実績（22年度に行った主な活動）
・伝統芸能活用イベント開発PR事業　・交通アクセス向上事業
・外客誘客促進事業　・プログラム開発事業・大都市圏情報発信キャンペーン事業
・モニターツアー事業など

23年度計画（23年度に計画している主な活動）
・体験型教育旅行誘致・受入促進事業　・一般客向け着地方商品の企画・販売　・外客向け着地型旅行商品開発・プロモーション事業など

② 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等
・にし阿波を訪れる観光客（国内・国外）

③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）
・にし阿波を訪れる観光客（国内・国外）の滞在促進を図る。

④ 結果（どんな結果に結び付けるのか）
・広く全国の方々ににし阿波を認知してもらう。
・にし阿波を訪れる観光客の滞在促進。
・にし阿波を訪れた観光客に満足してもらう。

⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	観光キャンペーン実施回数	回/年
イ	モニターツアー実施回数	回/年
ウ	研修会開催回数	回/年

⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	にし阿波を訪れる観光客	千人
イ		
ウ		

⑦ 成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	宿泊客数	千人
イ	外国人宿泊者数	人
ウ	連泊客数	人

⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	祖谷のかずら橋渡橋数	人
イ	宿泊者数（公共）	人
ウ	観光HPアクセス数	件

(2) 総事業費・指標等の推移

			単位	19年度（実績）	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（実績）	23年度（見込み）	24年度（成行予測）	25 年度（成行予測）
投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円		9,150	12,670	8,545	5,317	5,317	
		一般財源	千円		11,585	11,840	7,165	6,955	9,092	
	事業費計（A）		千円	0	20,735	24,510	15,710	12,272	14,409	0
	人件費	正規職員従事人数	人		1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間		600	1,200	1,200	1,200	1,200	
		人件費計（B）	千円	0	2,280	4,560	4,560	4,560	4,560	0
	トータルコスト(A)＋(B)		千円	0	23,015	29,070	20,270	16,832	18,969	0
活動指標	ア		回/年		6	6	6	6	6	
	イ		回/年		3	3	3	3	3	
	ウ		回/年		5	5	5	5	5	
対象指標	ア		千人	2,594	2,594	2,684	2,641	3,206	3,312	
	イ									
	ウ									
成果指標	ア		千人	161	170	171	177	219	232	
	イ		人	952	1,749	1,990	2,422	1,231	1,300	
	ウ		人	1,153	1,382	1,591	1,489	2,790	3,200	
上位成果指標	ア		人	368,826	357,766	391,097	339,949	370,000	370,000	
	イ		人	28,213	27,941	25,180	22,954	27,000	27,000	
	ウ		件		93,499	224,093	296,847	350,000	350,000	

事務事業名	にし阿波観光圏整備事業	所属部	産業観光部	所属課	観光課

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成20年7月に「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律（平成20年法律第39号）」が施行されたことから、これまでの観光振興の取り組みをより一層強化し、圏域の地域資源を活かした観光旅客の来訪・滞在の促進を図るための指針として実施。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

平成20年10月1日付けで、全国16カ所の観光圏認定箇所の内の一つとして「にし阿波観光圏」の認定を受け事業を遂行することにより、全国的に観光地としての認知度・注目度が高まってきた。平成23年度からは一般社団法人そらの郷を事業主体とした観光地域づくりプラットフォーム事業を実施し、滞在促進を図る。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

2 評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市（町）の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由】
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市（町）が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由】 観光を市のリーディング産業と位置づけ、観光交流人口の拡大により地域経済の活性化を図ることは、行政の努めである。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 適切である ⇒【理由】 特に変更の必要はない。
有効性評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☑ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 にし阿波観光圏の魅力を観光キャンペーン等で広く全国にPRすることにより、観光客の来訪・滞在促進に努めることができる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 三好市の産業の発展、地域経済の活性化が損なわれる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある （具体的な手段，事務事業） ☑ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 国土交通大臣より認定を受けた事業なので統廃合・連携は出来ない。しかし、他の事務事業で「観光資源及び観光交流施設等の調査・開発」などは、にし阿波観光圏整備ないで実施可能。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☑ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 効果的な事業内容の見直しにより検討の余地あり。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 観光産業は、21世紀のリーディング産業といわれ、経済的な波及効果があるため、観光振興することにより地域の活性化につながることから、公平な事業といえる。

事務事業名	にし阿波観光圏整備事業	所属部	産業観光部	所属課	観光課

3　評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
③ 効率性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

事業を推進していくことは誤りではないが、当初計画した5カ年間の事業は、年々見直しをすることにより効率・効果的な結果が得られる。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
☑ 事業のやり方改善(効率性改善)　☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

成果＼コスト	削減	維持	増加
向上		○	
維持			
低下			

(5) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策